

## ◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

### 1. 瀬戸蔵ミュージアム【愛知・瀬戸】 (<https://www.city.seto.aichi.jp/docs/2011/03/15/00146/>)

9月2日(土)～12月17日(日)

企画展：白雲陶器 2 ―瀬戸ノベルティへの展開―

白雲または白雲陶器と呼ばれる素材は、1933(昭和 8)年に国の機関である陶磁器試験所で開発されました。当時はノベルティに限らず、飲食器や花瓶など幅広いジャンルの白雲陶器製品が生まれ、この新素材をもって海外シェア拡大に期待されていたところ、太平洋戦争によりその夢は絶たれてしまいます。しかし戦後、白雲陶器のもつ白さ・軽さ・発色の良さはノベルティ素材として大変適しているため、海外の主にアメリカへと大量に輸出されるようになり、陶磁器輸出高の多くを占めるようになりました。昭和 40 年代の後半頃には、国内のファンシーグッズなどを扱う雑貨屋やアメリカで流行するイラストやファッションを扱う店舗にも白雲陶器製ノベルティが登場しました。もともとアメリカ向けにつくられた瀬戸ノベルティの中には、国内の雑貨屋にも流通する製品が現われ、国内マーケットにも広がり

を見せるようになりました。こうしたファンシーグッズに対しても白雲陶器は、もっとも手軽でコストパフォーマンスに優れている素材であるため、円高の影響などで輸出が停滞していく中で、国内向けのファンシーグッズとして活路を開いていきました。令和 4 年度企画展では白雲陶器の戦前の状況を紹介しましたが、本展では、戦後に輸出ノベルティとして、その後国内のファンシーグッズとして華開いていった過程を紹介していきます。



### 2. 瀬戸市美術館【愛知・瀬戸】 ([http://www.seto-cul.jp/archive/R5\\_nenkan\\_event\\_new2.pdf](http://www.seto-cul.jp/archive/R5_nenkan_event_new2.pdf))

10月7日(土)～11月26日(日)

瀬戸市制施行 94 周年記念 瀬戸市美術館特別企画展：

瀬戸ノベルティへの至高 ―Made by MARUYAMA―

本展は瀬戸ノベルティを代表するメーカーである丸山陶器が制作した代表的なノベルティを一堂に展示する初めての展覧会です。昭和の時代に世界中から愛された丸山陶器製のノベルティの技や美の象徴である精緻な人形など、瀬戸ノベルティの最高峰とも言える作品群をご覧ください。



### 3. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波】 (<https://www.mcart.jp/exhibition/e3502/>)

9月9日(土)～11月26日(日)

特別展：日本工芸会陶芸部 50 周年記念展 未来へつなぐ陶芸―伝統のチカラ



本展は日本工芸会陶芸部会 50 周年を記念した展覧会であり、同会で活躍した作家の秀作とともに、その活動の歴史を振り返るものです。歴代の人間国宝の作品をはじめ、窯業地ならではの素材と伝統を受け継いだ作家らによる作品や茶の湯のうつわなど、伝統工芸の技と美を紹介します。さらに、未来を担う若手作家らの作品も見どころの一つと言えるでしょう。現代陶芸の今に焦点を当てた本展では、陶芸部会所属作家を中心に、それ以外の作家の作品を含めた 137 名の作家による作品 139 点を展覧します。